

1. 構造名：

葺材 [ステンレス鋼板製、鋼板製、銅合金板製又はチタン板製] ・硬質木片セメント板表張／軽量鉄骨下地屋根

2. 仕様の寸法：

仕様の寸法を表1に示す。

表1 仕様の寸法

項 目	仕 様
支持部材間隔	2000mm以下
たるき間隔	607mm以下
屋根葺材の種類	仕様：①～⑧の一 ①平葺き ②たて平葺き ③かわら棒葺き ④段葺き ⑤横葺き ⑥金属がわら葺き ⑦平滑葺き ⑧折板葺き 働き幅：610mm以下 はぜの高さ又は山高さ：3(-1)mm以上

3. 仕様の主構成材料：

仕様の主構成材料を表2に示す。

表2 仕様の主構成材料

項目	仕様
たるき	材料：一般構造用軽量形鋼 (JIS G 3350) 形状・寸法：(1)又は(2) (1) □-100×50×20×2.3mm以上 (2) □-100×50×2.3mm以上
屋根葺材	仕様：(1)～(4)の一 葺材単位面積質量：6.5kg/m ² 以下 塗装品の塗装の種類：1)～8)の一 1) ポリエステル系樹脂塗料 2) アクリル系樹脂塗料 3) シリコン系樹脂塗料 4) アミノ・アルキド系樹脂塗料 5) 塩化ビニル系樹脂塗料 6) フッ素系樹脂塗料 7) エポキシ系樹脂塗料 8) ウレタン系樹脂塗料 塗布量：65g/m ² 以下(片面)、130g/m ² 以下(両面)
(1) ステンレス鋼板	材料：①、②又は③ ① 塗装ステンレス鋼板 (JIS G 3320) (国土交通大臣認定不燃材料：NE-0042、NE-0046) ② 熱間圧延ステンレス鋼板 (JIS G 4304) ③ 冷間圧延ステンレス鋼板 (JIS G 4305) 厚さ：0.3～0.8mm
(2) 鋼板	材料：①～⑫の一 ① 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 (JIS G 3322) ② 溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 (JIS G 3321) ③ 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3312) ④ 溶融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3302) ⑤ 塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 (JIS G 3318) ⑥ 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 (JIS G 3317) ⑦ 電気亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3313) ⑧ 溶融アルミニウムめっき鋼板 (JIS G 3314) ⑨ 両面ポリエステル樹脂系塗装/アルミニウムめっき鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-9583、NM-9584) ⑩ フッ素樹脂系塗装/裏面ポリエステル樹脂系塗装/アルミニウムめっき鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-9662) ⑪ 両面アクリル樹脂系塗装/亜鉛めっき鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-8341、NM-8514) ⑫ 両面ポリエステル樹脂系塗装/溶融アルミニウムめっき鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-1863)

つづく

つづき

<p>屋根葺材</p> <p>(2) 鋼板</p>	<p>⑬塗装／亜鉛めっき鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-8697)</p> <p>⑭建築構造用溶融亜鉛－アルミニウム－マグネシウム合金めっき鋼板 (国土交通大臣認定指定建築材料：MSTL-0064、0065、0069、0070、0365及び0395)</p> <p>⑮フッ化ビニリデン樹脂系塗装／両面アクリル・塩化ビニル樹脂系塗装／亜鉛めっき鋼板(国土交通大臣認定不燃材料：NM-8400)</p> <p>⑯アルミニウム・亜鉛合金めっき鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-8027)</p> <p>⑰ポリエステル樹脂系塗装／アルミニウム・亜鉛合金めっき鋼板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-8028)</p> <p>⑱塗装亜鉛合金板／塗装鋼板(国土交通大臣認定不燃材料：NE-0040、NE-0044)</p> <p>⑲亜鉛合金板／塗装鋼板(国土交通大臣認定不燃材料：NE-0041、NE-0045)</p> <p>⑳塗装亜鉛合金板／鋼板(国土交通大臣認定不燃材料：NE-0042、NE-0046)</p> <p>㉑亜鉛合金板／鋼板(国土交通大臣認定不燃材料：NE-0043、NE-0047)</p> <p>厚さ：0.3～1.6mm</p>
<p>(3) 銅合金板</p>	<p>材料：伸銅品(JIS H 3100)、(JIS H 0500)、(JIS H 5120)、 又は(国土交通大臣認定不燃材料：NM-8586～NM-8595の一)</p> <p>厚さ：0.3～0.8mm</p>
<p>(4) チタン板</p>	<p>材料：チタン展伸材(JIS H 4600)、(JIS H 4657)、 又は(国土交通大臣認定不燃材料：NM-8596)</p> <p>厚さ：0.3～0.8mm</p>
<p>裏打材</p>	<p>仕様：なし</p>
<p>野地板</p>	<p>材料：硬質木片セメント板(JIS A 5404)</p> <p>厚さ：18(-2)mm以上</p> <p>密度：1.1(-0.1)g/cm³以上</p> <p>表面化粧：</p> <p>種類：①～⑦の一、又はその組み合わせ</p> <p>①アクリルウレタン樹脂系塗料</p> <p>②アクリル樹脂系塗料</p> <p>③アクリルシリコーン樹脂系塗料</p> <p>④ふっ素樹脂系塗料</p> <p>⑤エポキシ樹脂系塗料</p> <p>⑥無機質系塗料</p> <p>⑦なし</p> <p>塗布量：200g/m²以下(有機質固形分量)</p>

4. 仕様の副構成材料：

仕様の副構成材料を表3に示す。

表3 仕様の副構成材料

項目	仕様
たるき取付金物	材料：一般構造用圧延鋼材 (JIS G 3101) 形状・寸法：①～③の一、又は組合せ(但し、②についてはたるきダブル部位のみに使用) ①不等辺山形鋼又は山形鋼L-75×75×6mm以上 ②平鋼FB-6×75×65mm以上 ③リブ付き山形鋼L-75×75×6mm以上 リブ寸法：10×40×1.6mm以上 リブ本数：1本以上
たるき留付材	材料：①及び②、又は③ ①六角ボルト (JIS B 1180) 寸法：M12×25mm以上 ②ナット (JIS B 1181) 寸法：M12以上 ③アーク溶接 溶接幅：2.3mm以上 溶接長さ：20mm以上
防水材	材料：①～⑤の一 ①アスファルトルーフィングフェルト (JIS A 6005) ②合成高分子系ルーフィングシート (JIS A 6008) ③改質アスファルトルーフィングシート (JIS A 6013) ④改質アスファルトルーフィングシート (JWMA規格ARK04S-04、ARK08-02、ARK14W-04、ARK16K02) ①～④の単位面積質量の呼び：1500以下 ⑤透湿防水シート (JIS A 6111) 単位面積質量：1500g/m ² 以下
吊子	(葺材仕様：①～⑤、⑦及び⑧の場合) 仕様：あり又はなし 材料・厚さ：屋根葺材と同じ 取付間隔：800mm以下
捨て板	(葺材仕様：①、④及び⑤の場合) 仕様：あり又はなし 材料・厚さ：屋根葺材と同じ 取付間隔：800mm以下
かわら棒包み板	(葺材仕様：③の場合) 材料・厚さ：屋根葺材と同じ
ジョイナー	(葺材仕様：⑦の場合) 材料・厚さ：屋根葺材と同じ
タイトフレーム	(葺材仕様：⑧の場合) 仕様：あり又はなし 材料・厚さ：屋根葺材と同じ 幅：35mm以上 取付間隔：800mm以下
キャップ	(葺材仕様：②、③、⑤、⑦及び⑧の場合) 仕様：あり又はなし 材料・厚さ：屋根葺材と同じ

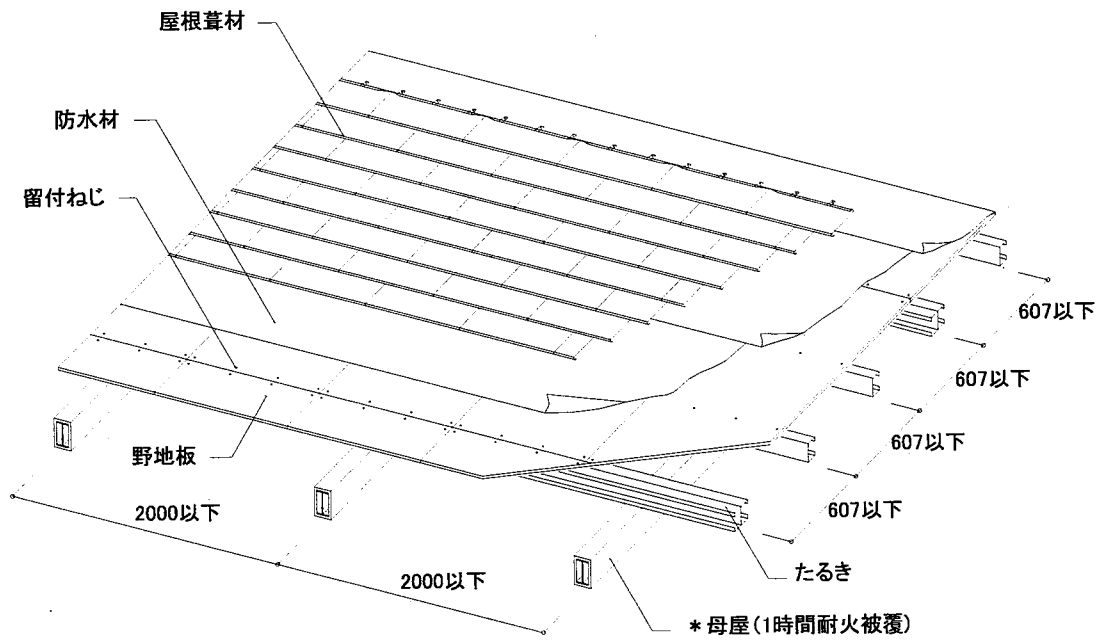
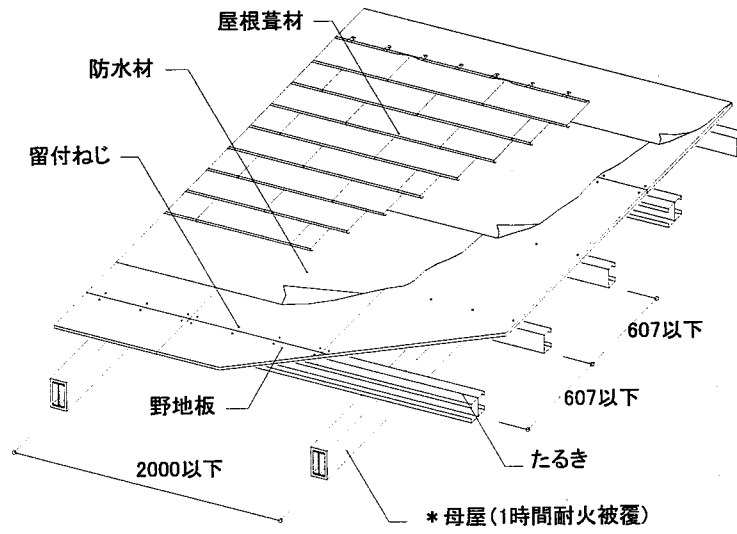
つづく

つづき

野地板目地	<p>仕様：①～④の一</p> <p>①目透かし目地+ジョイナー ジョイナーの材料：屋根葺材と同じ ジョイナーの厚さ：0.27mm以上 ジョイナーの形状：T型又はH型</p> <p>②突付け目地</p> <p>③突付け目地+ジョイナー ジョイナーの材料、厚さ及び形状：①と同じ</p> <p>④突付け目地+テープ テープの材質：アルミニウム テープの厚さ：0.2mm以上 テープの幅：20mm以上</p>
留付材	<p>屋根葺材固定用： 材料：ねじ 材質：鋼製又はステンレス鋼製 寸法：胴部径φ3.0×長さ10mm以上 留付間隔：800mm以下</p>
	<p>野地板固定用： 材料：ねじ 材質：鋼製又はステンレス鋼製 寸法：胴部径φ4.0×長さ30mm以上 留付間隔：303mm以下</p>
	<p>吊子固定用： (葺材仕様：①～⑤及び⑦の場合) 材料：ねじ 材質：鋼製又はステンレス鋼製 寸法：胴部径φ3.0×長さ10mm以上 (葺材仕様：⑧の場合) 材料：ボルト 材質：鋼製又はステンレス鋼製 寸法：M6×長さ20mm以上</p>
	<p>タイトフレーム固定用：(タイトフレームを用いる場合) 仕様：①又は② ①ねじ 材質：鋼製又はステンレス鋼製 寸法：胴部径φ4.0×長さ30mm以上 ②アーク溶接 溶接幅：2.3mm以上 溶接長さ：20mm以上</p>

5. 仕様の構造説明図：

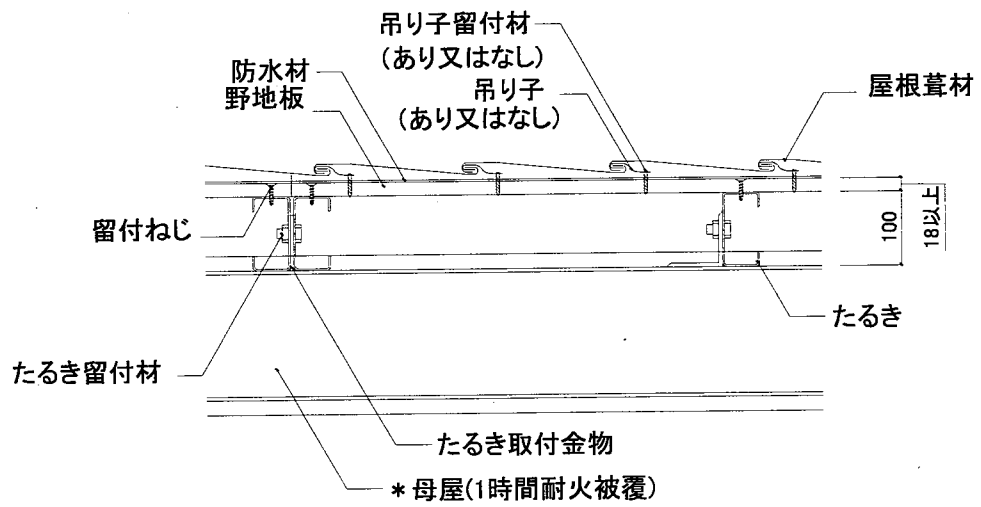
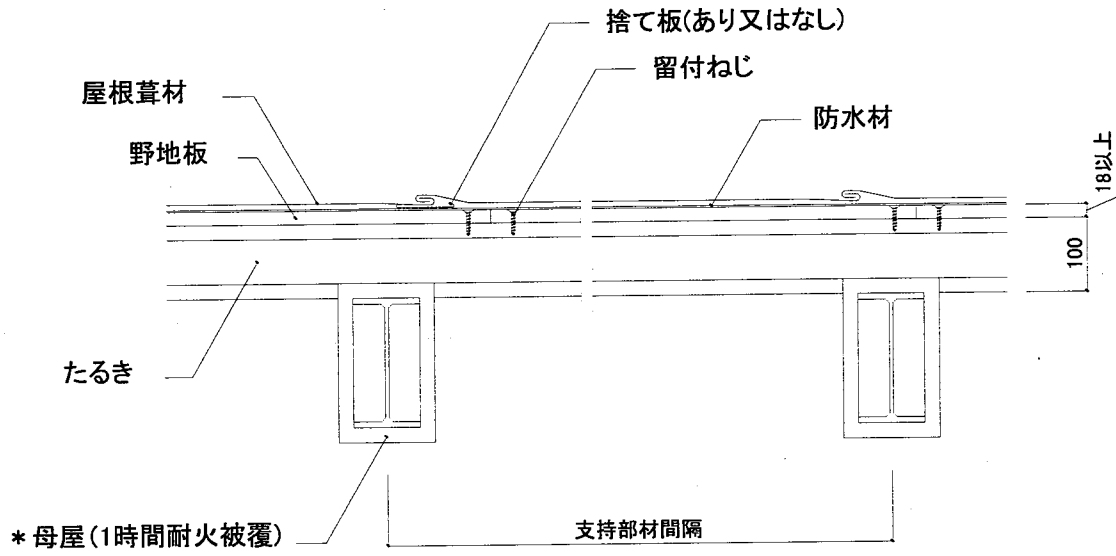
仕様の構造説明図を図1～図17に示す。



*評価対象外

(屋根葺材の種類：①平葺きの場合)

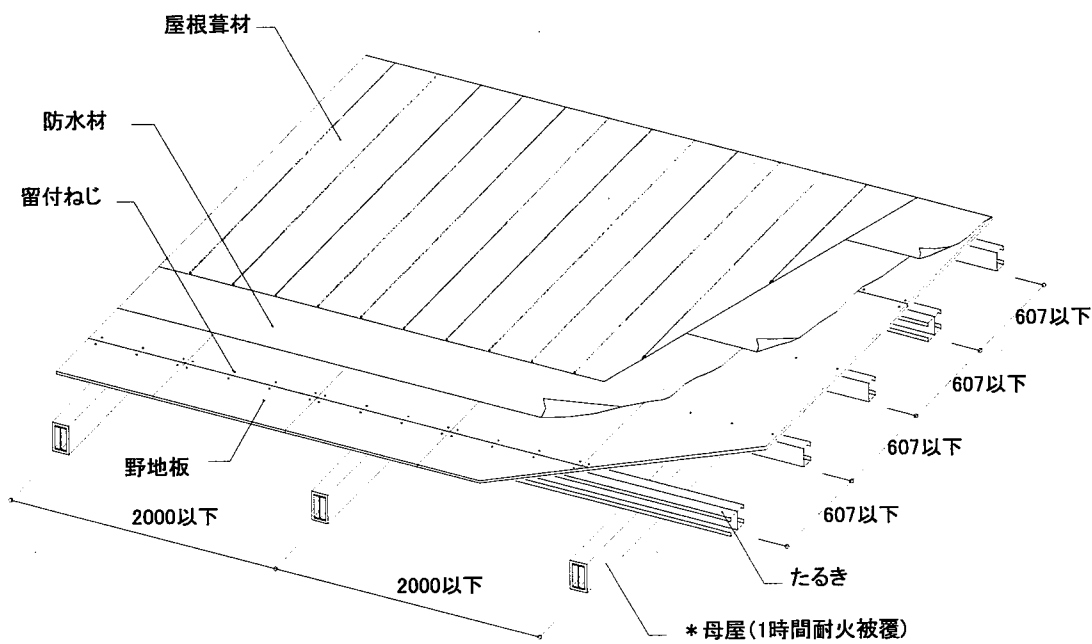
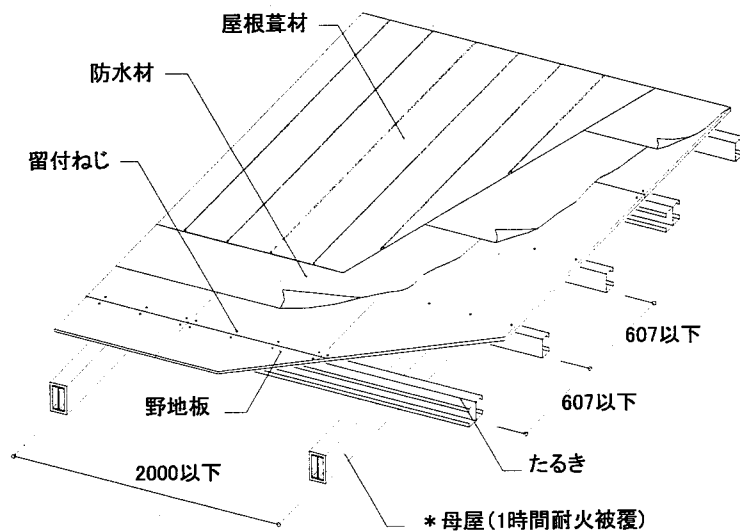
図1 構造説明図



*評価対象外

(屋根葺材の種類：①平葺きの場合)

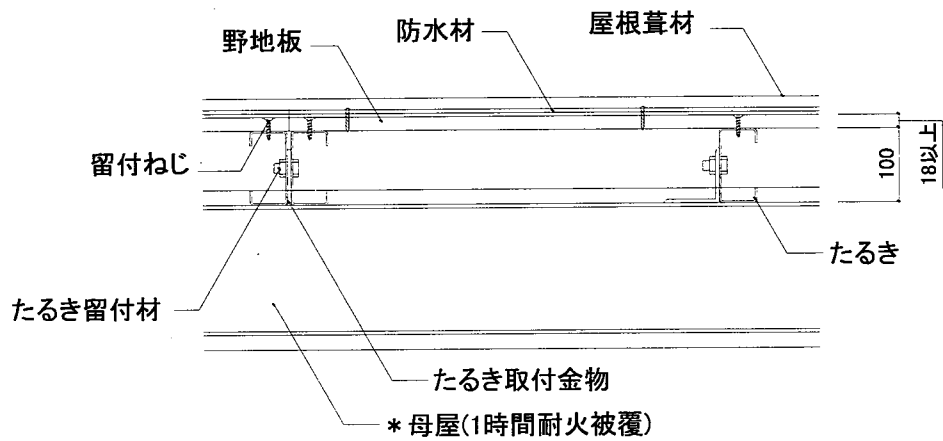
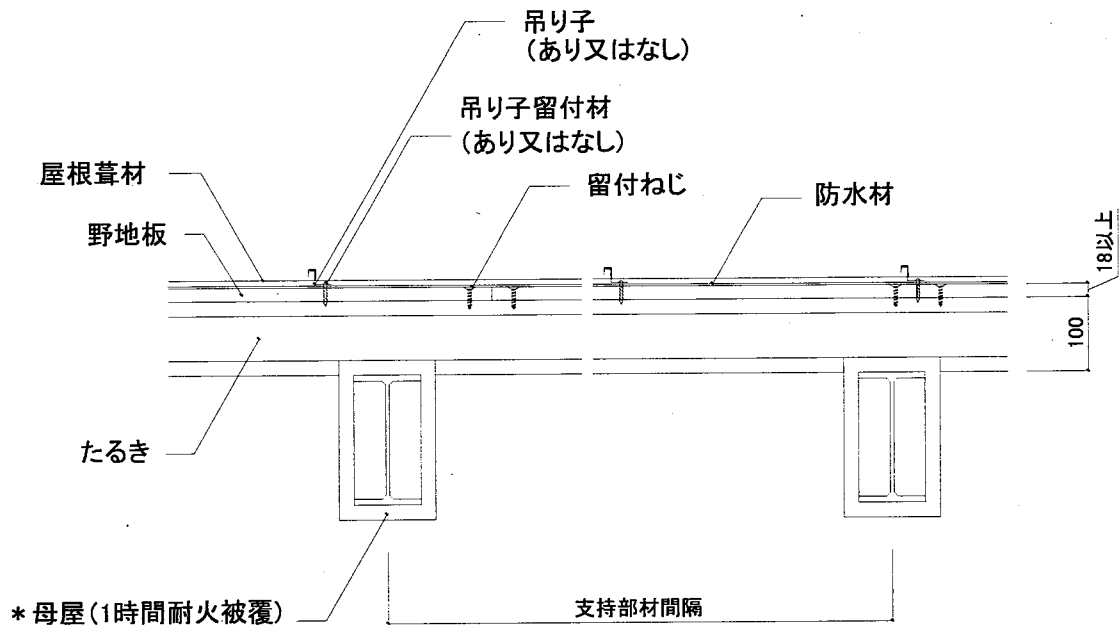
図2 構造説明図



*評価対象外

(屋根葺材の種類：②たて平葺きの場合)

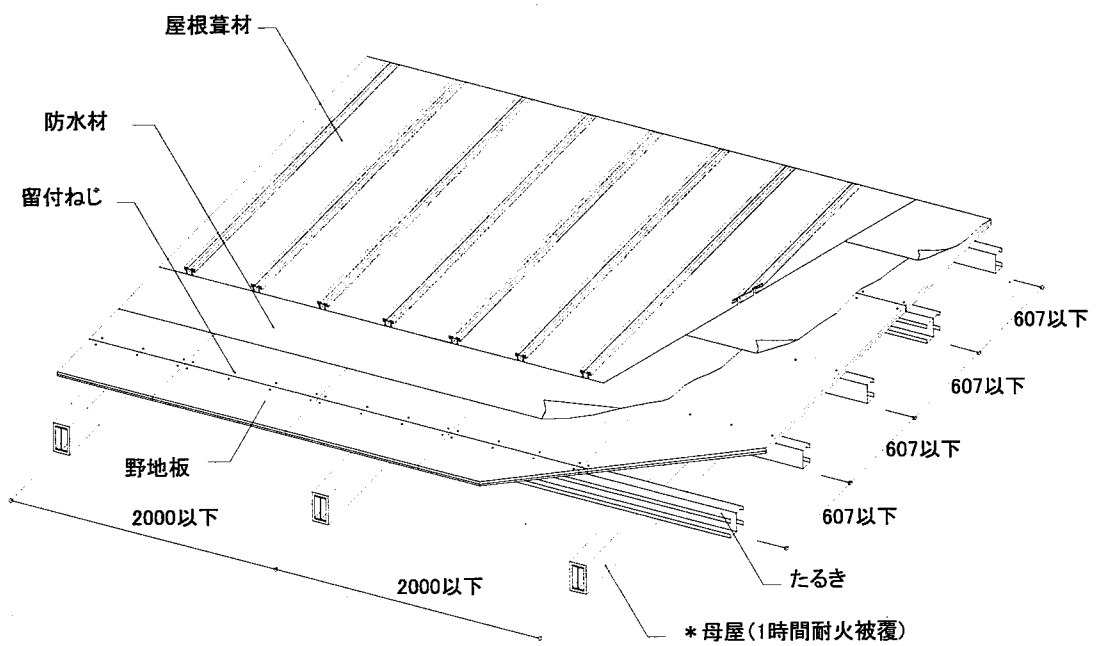
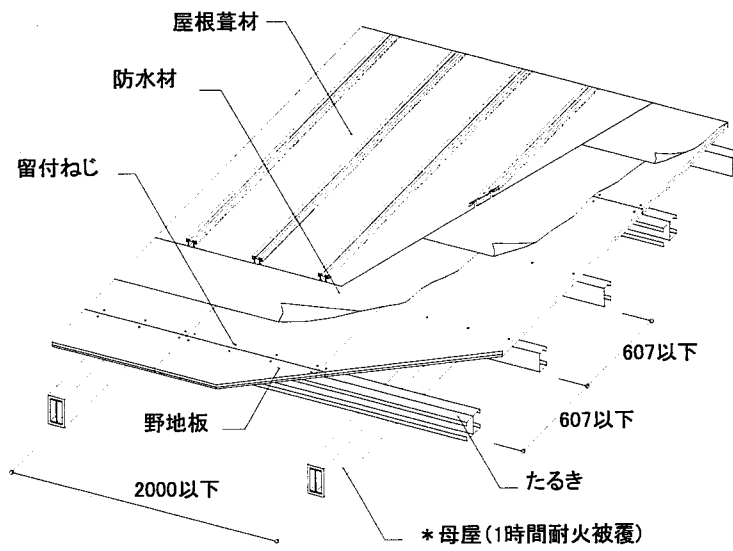
図3 構造説明図



*評価対象外

(屋根葺材の種類：②たて平葺きの場合)

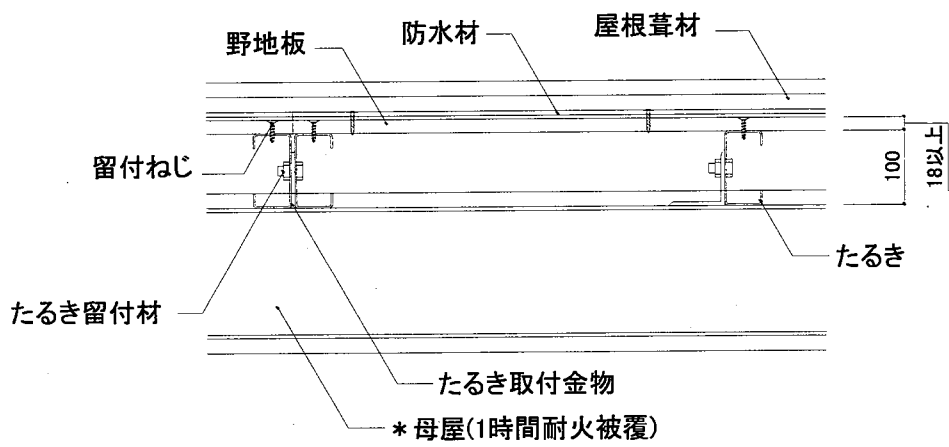
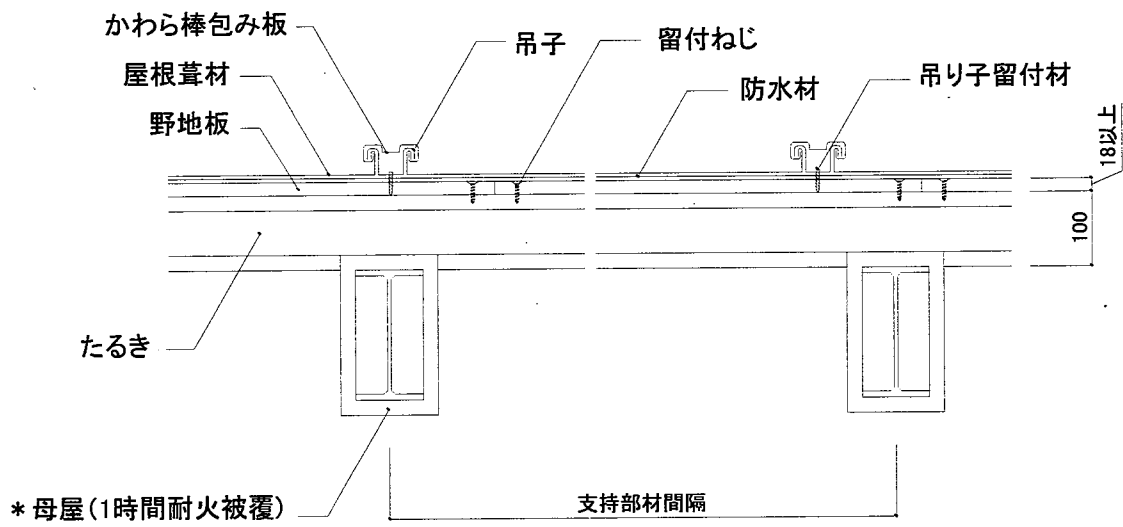
図4 構造説明図



*評価対象外

(屋根葺材の種類：③かわら棒葺きの場合)

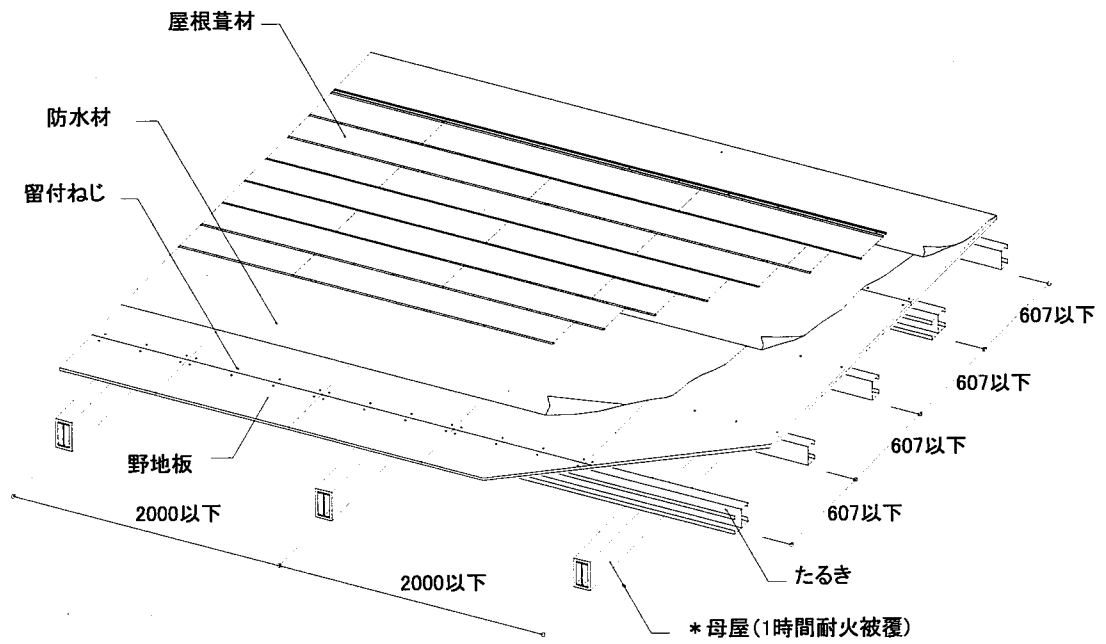
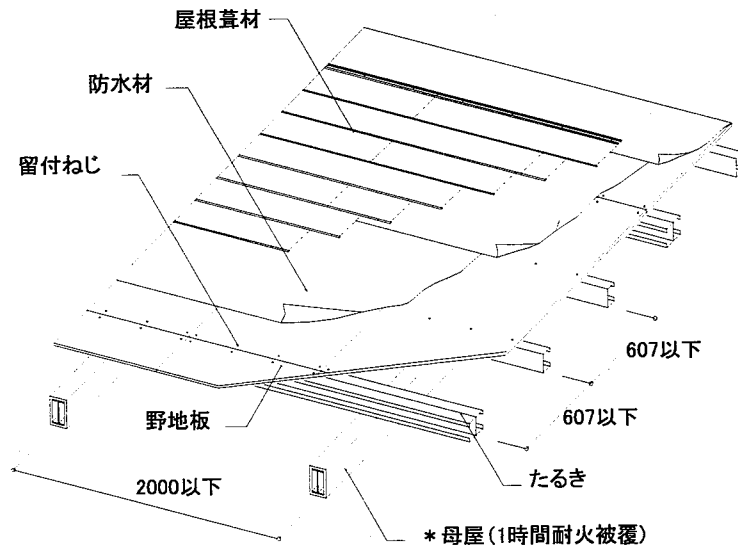
図5 構造説明図



* 評価対象外

(屋根葺材の種類：③かわら棒葺きの場合)

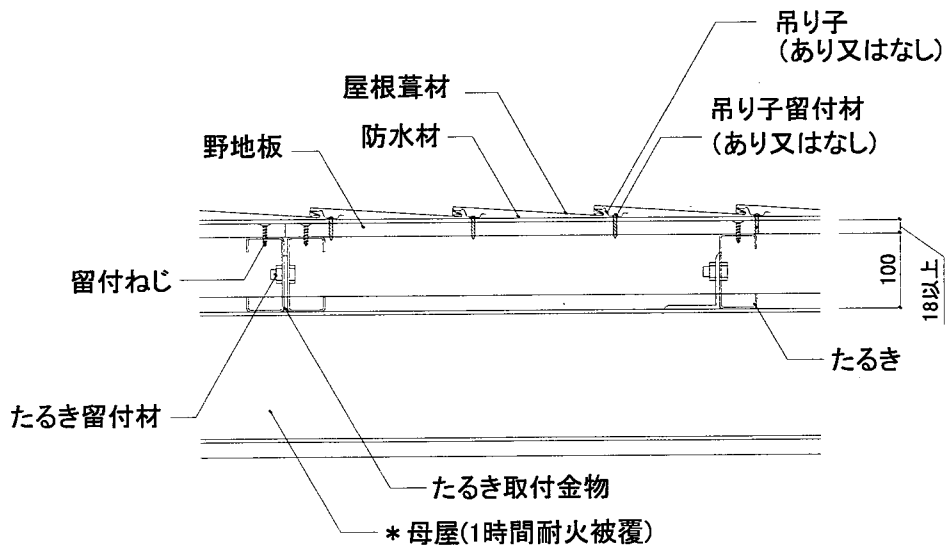
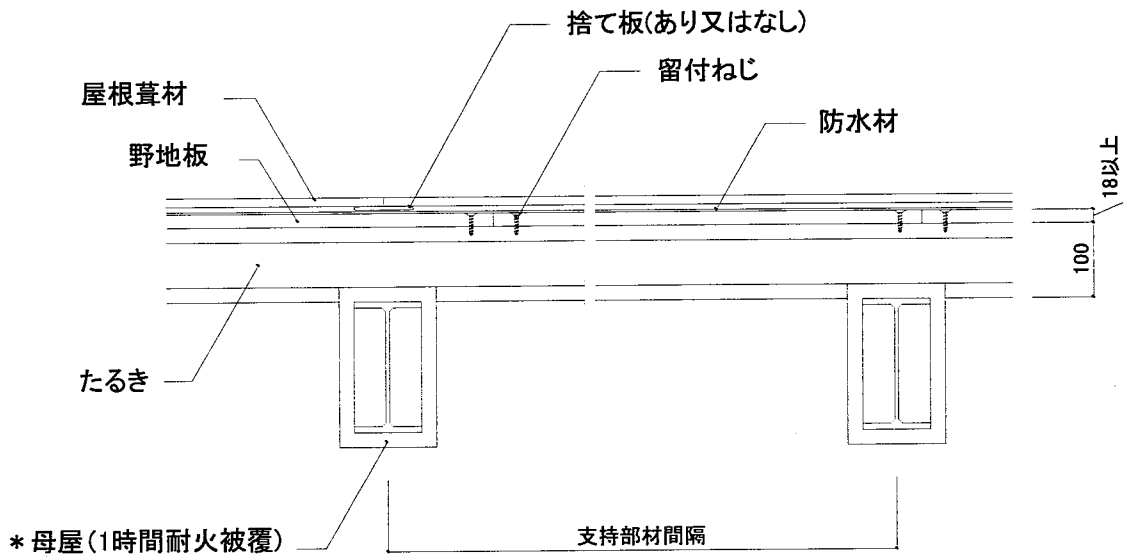
図6 構造説明図



*評価対象外

(屋根葺材の種類：④段葺きの場合)

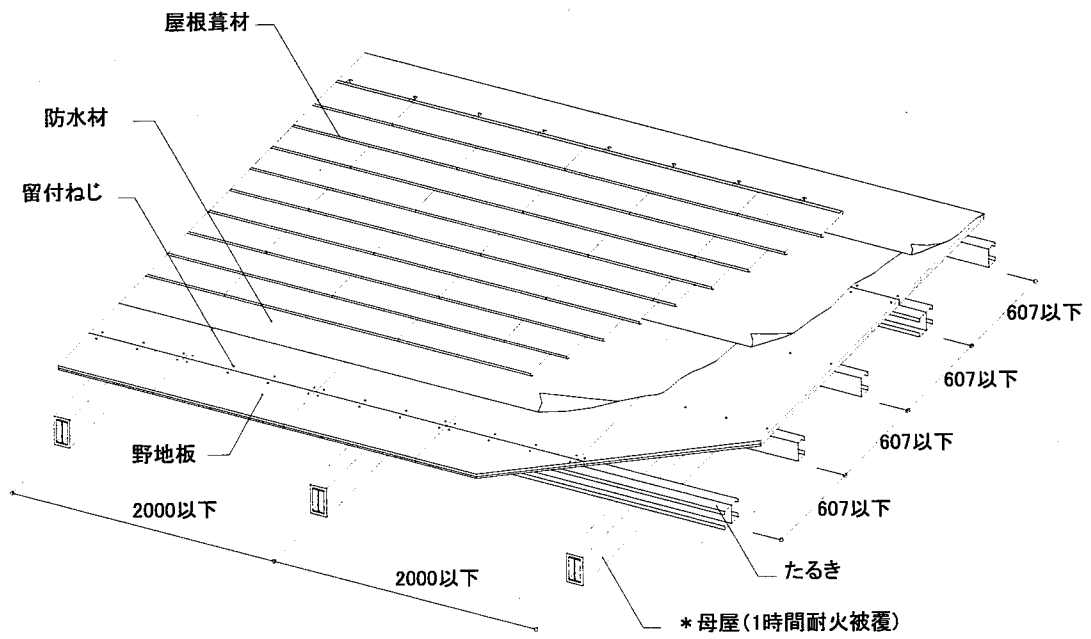
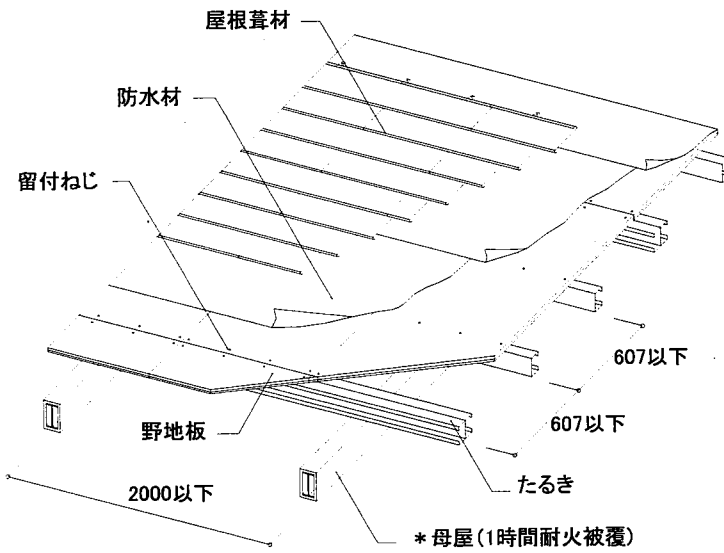
図7 構造説明図



*評価対象外

(屋根葺材の種類：④段葺きの場合)

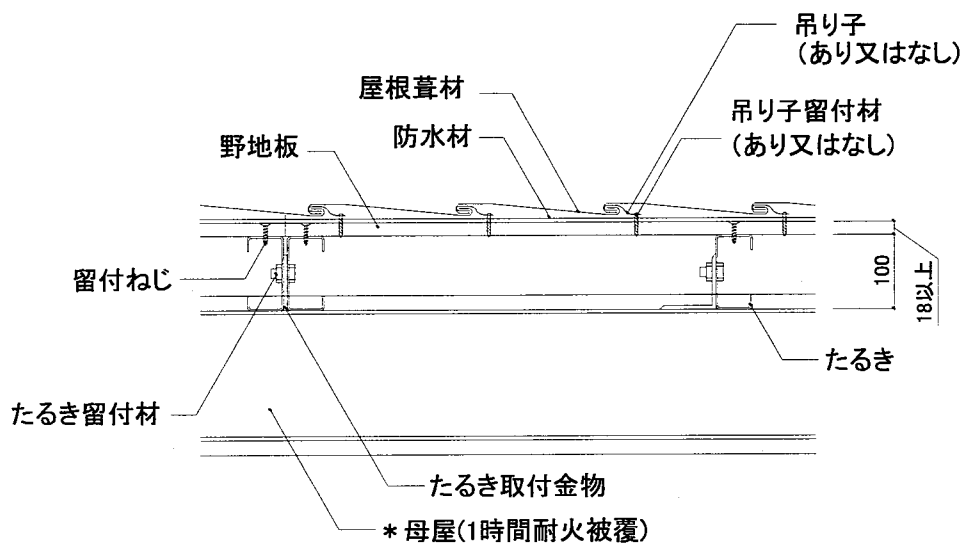
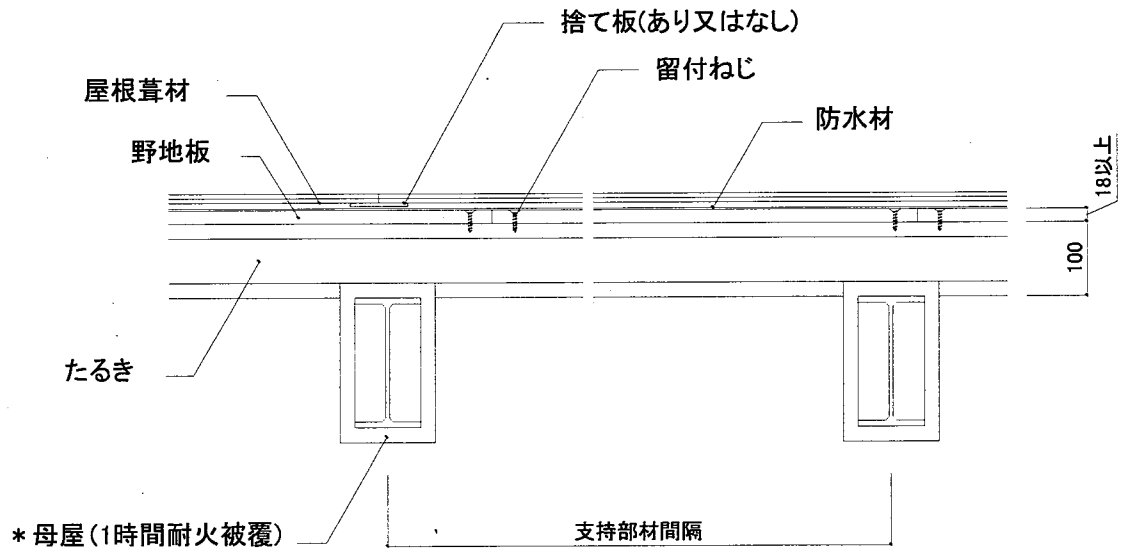
図8 構造説明図



*評価対象外

(屋根葺材の種類：⑤横葺の場合)

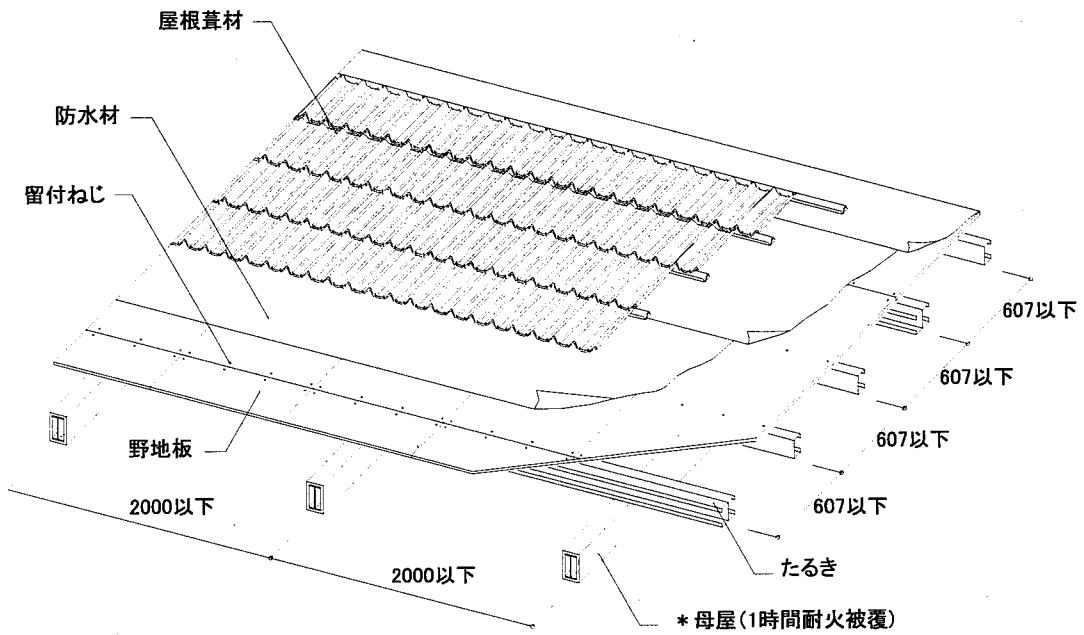
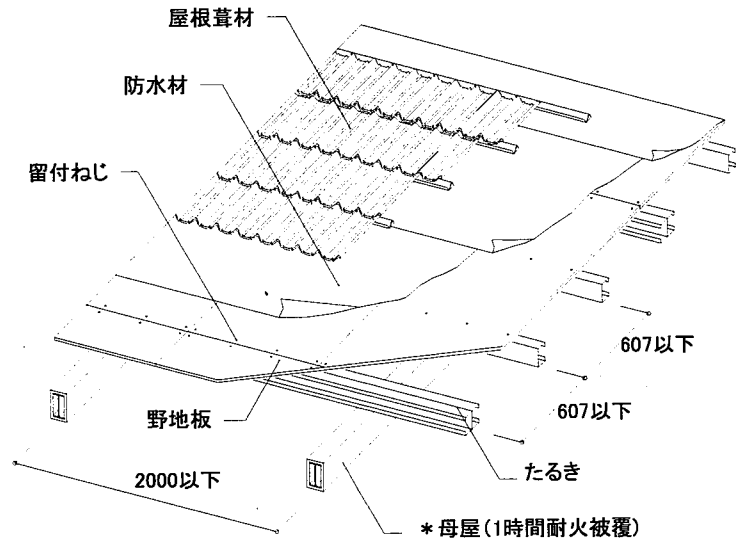
図9 構造説明図



* 評価対象外

(屋根葺材の種類：⑤横葺の場合)

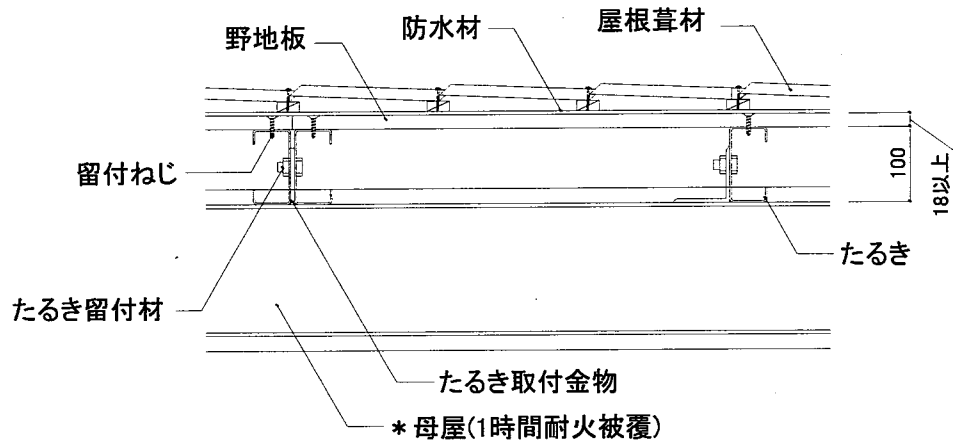
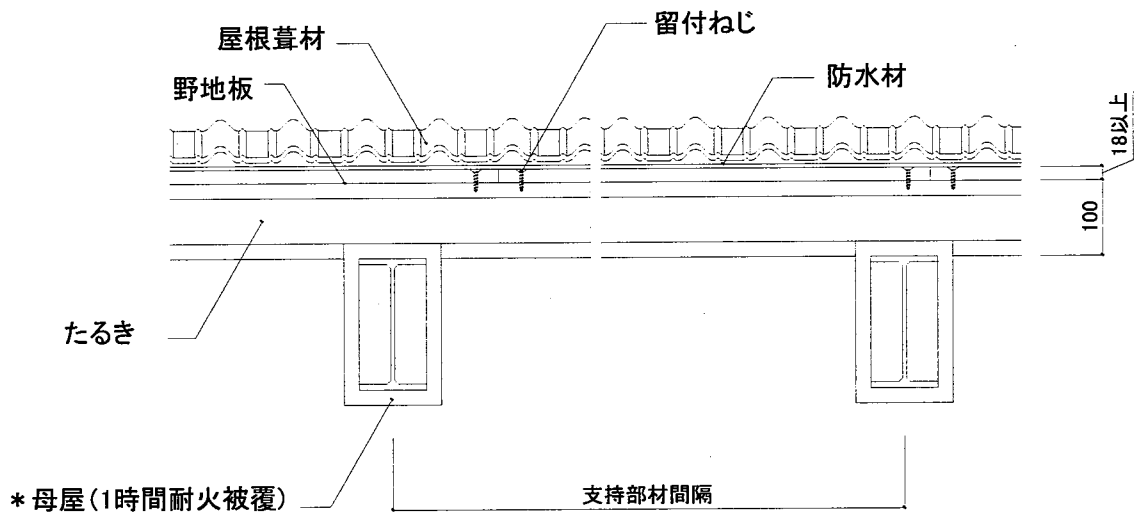
図10 構造説明図



*評価対象外

(屋根葺材の種類：⑥金属がわら葺きの場合)

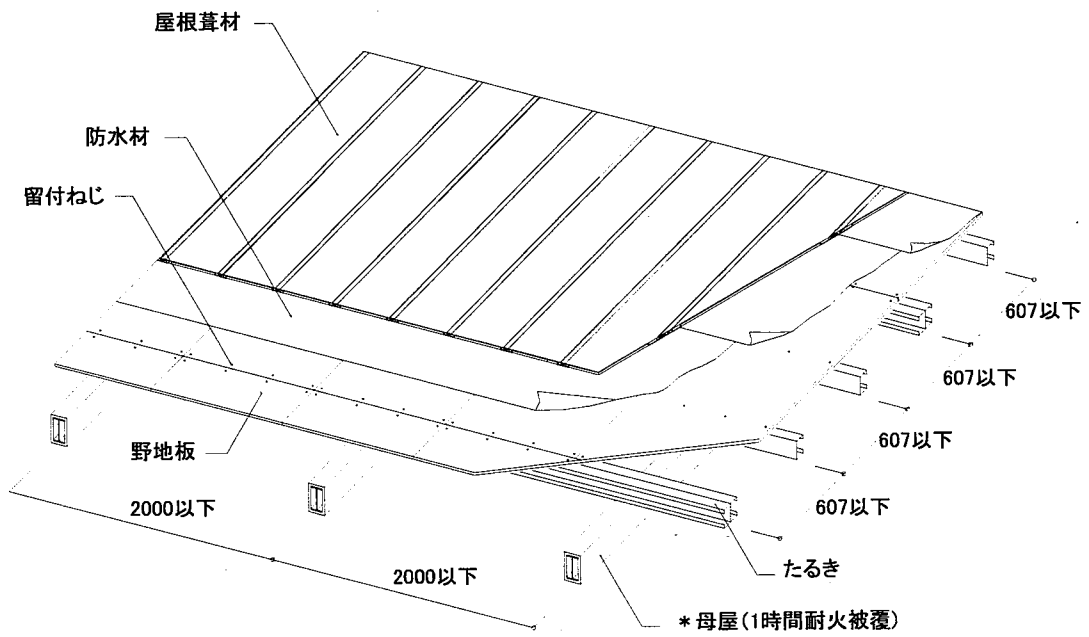
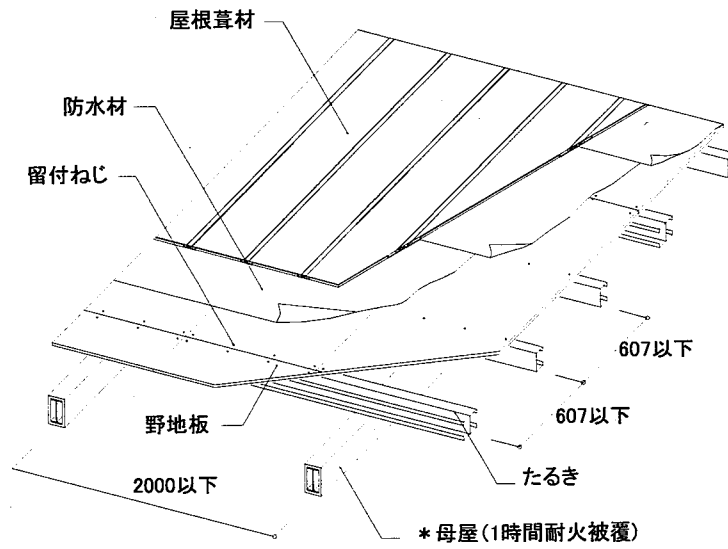
図11 構造説明図



*評価対象外

(屋根葺材の種類：⑥金属がわら葺きの場合)

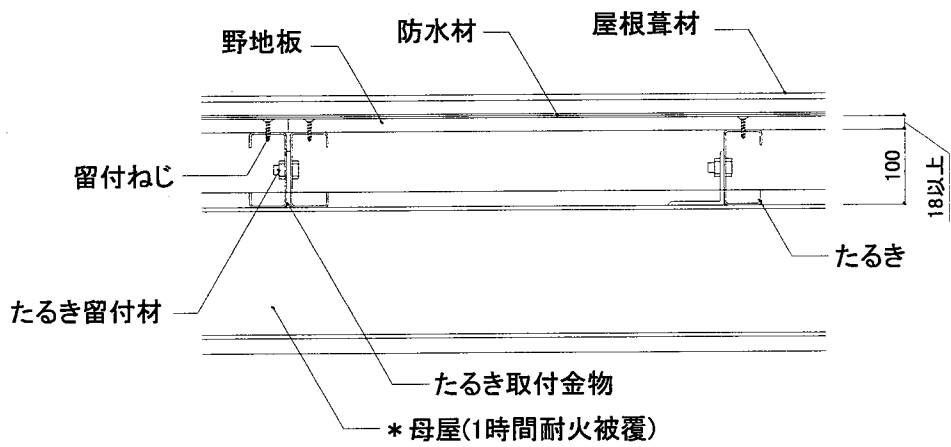
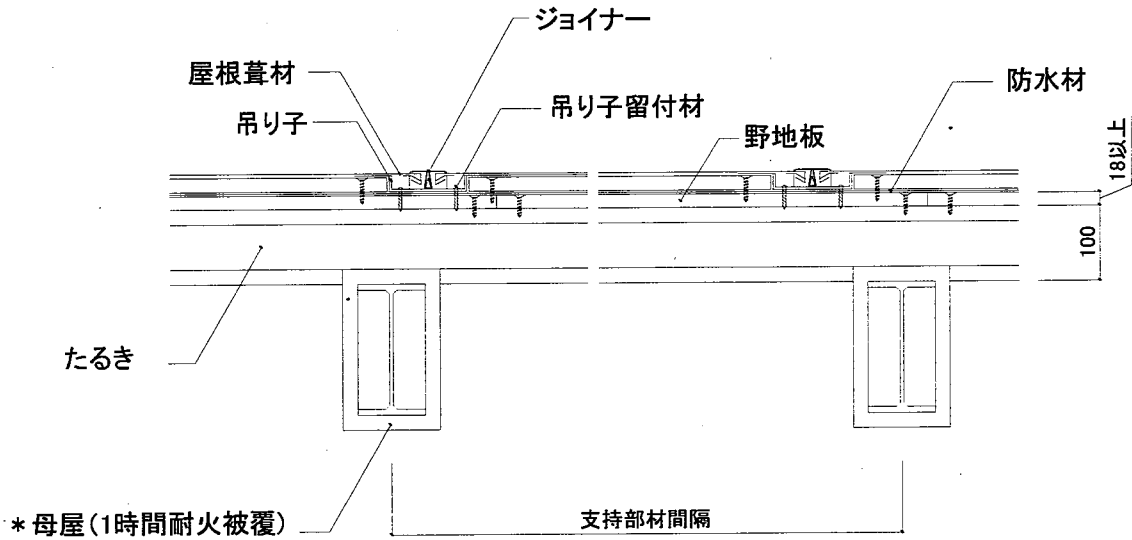
図12 構造説明図



*評価対象外

(屋根葺材の種類：⑦平滑葺きの場合)

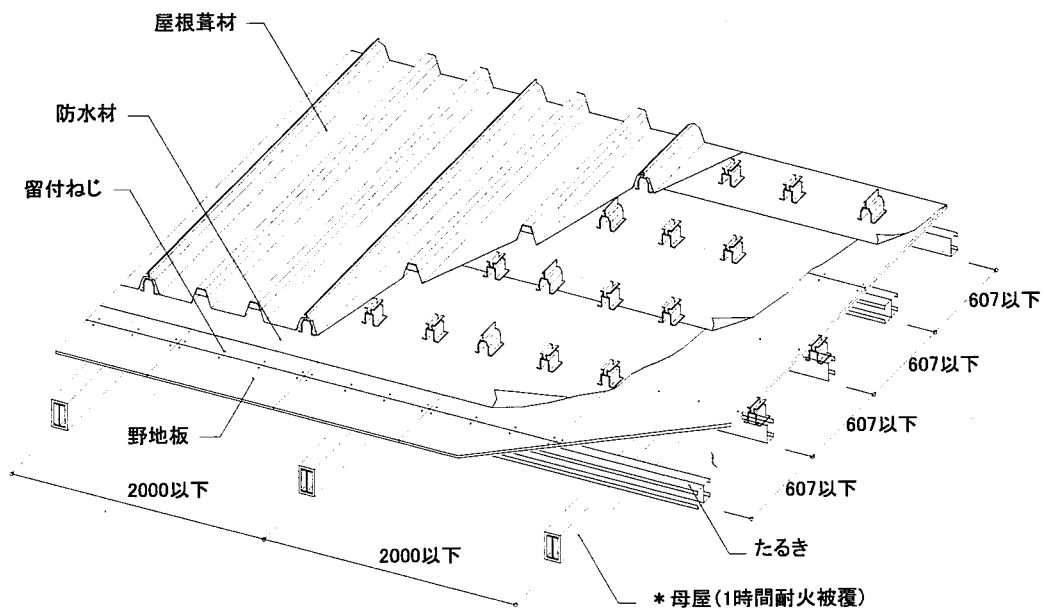
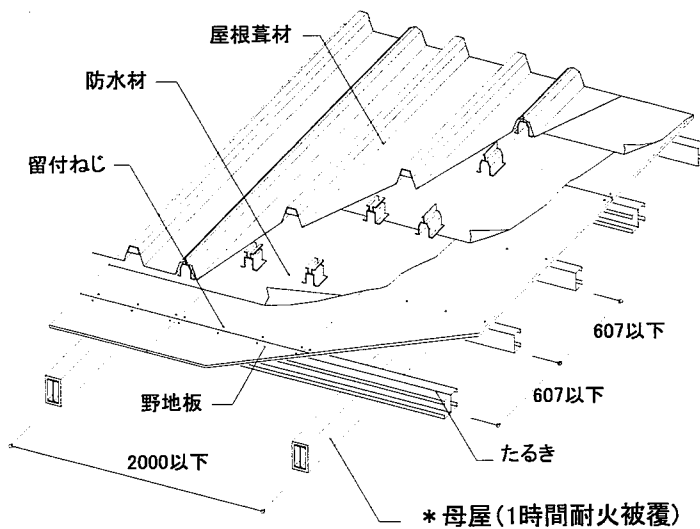
図13 構造説明図



* 評価対象外

(屋根葺材の種類：⑦平滑葺きの場合)

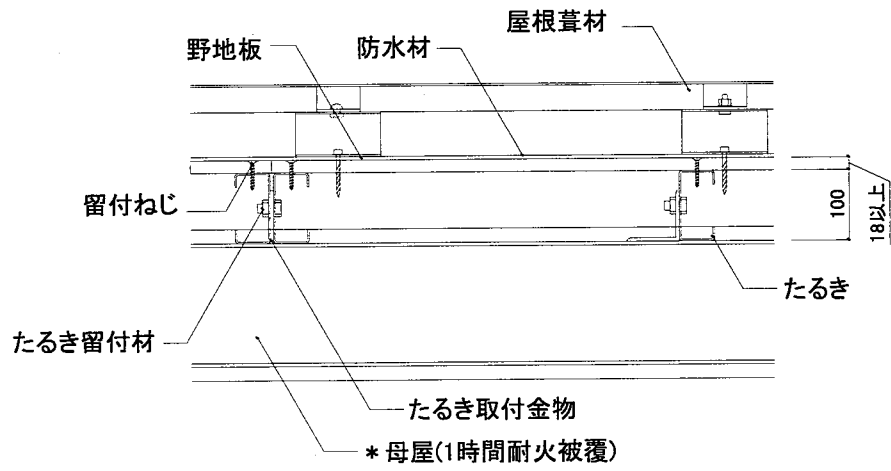
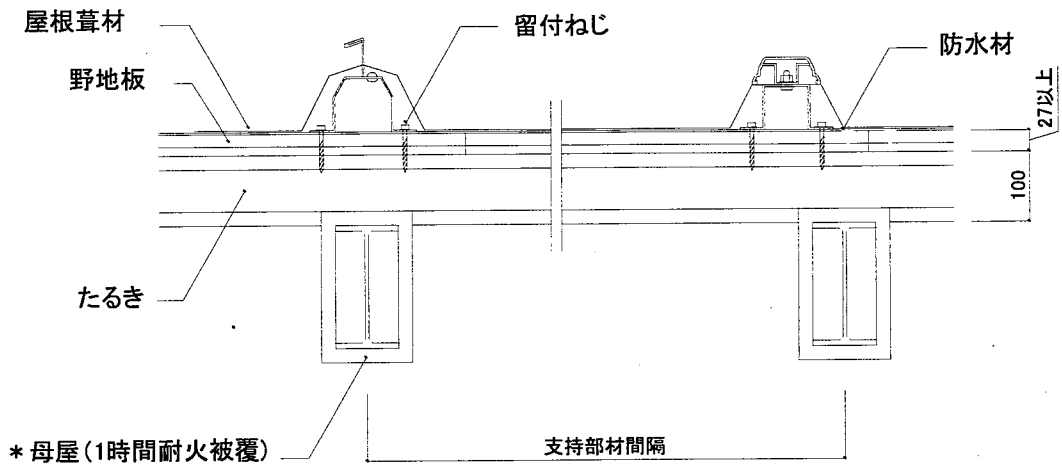
図14 構造説明図



* 評価対象外

(屋根葺材の種類：⑧折板葺きの場合)

図15 構造説明図



* 評価対象外

(屋根葺材の種類：⑧折板葺きの場合)

図16 構造説明図

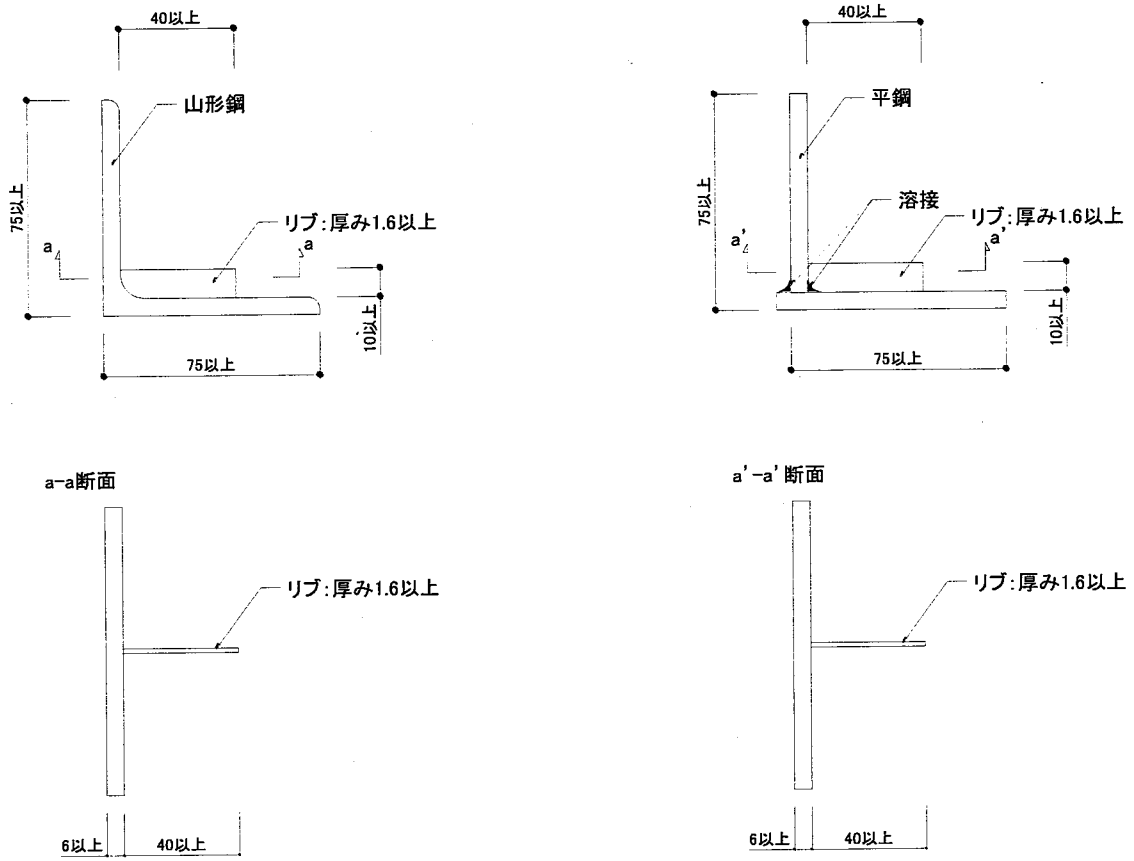


図17 構造説明図(たるき取付金物:③リブ付き山形鋼)

6. 施工方法：

施工は以下の手順で行う。

(1) 支持部材

支持部材は、構造耐力上安全なものとし耐火被覆を施す。但し、平成12年建設省告示第1399号第4第三号への規定に該当する場合には、耐火被覆を施さなくてもよい。

(2) 下地

1) たるき取付金物を、たるき間隔610mm以下になるように、母屋等に電気溶接で取り付ける。

たるきダブル部位に用いるたるき取付金物は、たるき間隔の3倍の1820mm以下の位置に設ける。また、たるきダブル部位にたるき取付金物の①山形鋼を用いる場合は、鋼製スペーサー等によりたるきが転倒しないように措置を講じるものとする。

2) たるき留付材を用いて、たるき取付金物にたるきを取り付ける。

(3) 野地板の取り付け

1) 割付図に従って野地板を配置する。

2) ジョイナーを用いる場合は、目地部の縦方向(たるきに対し直交方向)にジョイナーを挿入する。

3) 野地板は、野地板固定用留付材を用いて、野地板端部から100mm以内の位置でたるきに留付ける。

(4) 防水材の張付け

1) 防水材を、重ね代100mm以上となるように野地板の上に敷き込む。

2) 必要に応じて金属製のステーブル等の留付材で仮留めする。

(5) 屋根葺き

屋根葺材を、屋根葺材固定用留付材を用いて野地板に留付ける。

吊子を用いる場合は、吊子に屋根葺材固定用留付材を用いて野地板に留付ける。